

ビーチ・コーミング



本来は、海辺を歩きながら、貝や流木などの漂着物を探し、自然に親しむことをいいます。でも、最近は、海岸に漂着するごみを拾って、どんなごみが多いか、調査することをいうようです。



流木、クルミ、ブナの実、貝がら、魚のホネ、きれいな石、アナゴ漁の漁具、魚網、ペットボトル、ロープ…などなど、浜辺には、実に様々なものが流れ着いています。宝物になりそうなくらいきれいな貝がらがある一方、圧倒的に多いのが、プラスチック系のごみ、自然に帰ることのないごみです。プラスチックは、劣化して、ボロボロのかけらになって、肉眼では見えないほどに小さくなくても、プラスチックの性質を失わず、それをプランクトンが食べ、そのプランクトンを魚が食べ、さらに大きな魚が食べ…、人間の身体にも入っているかもしれないことを知りました。また、山と海は、川でつながっていることも実感しました。

海のごみを通して、どうすればごみにならなくなるか、例えば、ペットボトルなら容器代を高くして、買い取るしくみがあるとみんな捨てなくなるはずなどと、ごみを出さない暮らし方や生き方を考える機会になりました。

ときどき、浜辺を歩いてみませんか。思わぬ発見があるかも知れません。